

科 目 名	総合実習	単位数	4 単位	学科・学年	畜産総合	科	1 年
使用教科書	なし			副教材等			
学習目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力をと畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)家畜を総合的に捉え、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2)畜産に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う (3)畜産の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 (4)科目「畜産」の乳牛、肉牛実習と関連させて学習をすすめる。						
学習評価	○ 次の3つの観点に基づき、学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとつまとまり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。						
	①知識・技能	畜産の各分野に関する総合的な知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付ける。 ○作業内容について、指示通りにできるか。また次第に熟練した技術を持つことができるか。 ○実習（農業鑑定学習含む）を通して農業の各分野に幅広い見識を身に付けているか。 ○周囲との協調を図り、作業を円滑に進めることができるか。					
	②思考・判断・表現	畜産における総合的な技術の習熟と、各科目におけるを経営する学びをとおして課題を発見し、科学的根拠などに基づいて解決する力を養う。 ○指示された内容について把握し、きちんと動くことができるか。 ○指示された内容をさらに進化させ、自ら適切な判断をし、実習に展開できるか。 ○作業方法に工夫が見られ、より効果的なやり方で取り組んでいるか。					
	③主体的に取り組む態度	畜産の総合的な知識や技術、経営等について企画力や管理能力などを主体的協働的に取り組む態度を養う ○積極的に取り組もうとする姿勢があるか。又、片付けがきちんとできているか。 ○実習ノート記録がきちんとまとめられているか。 ○実習中の服装に乱れがなく、作業態度はよいか。					
		評価方法\観点	①	②	③		
		学習状況観察	◎	○	◎	自己評価	
		実習ノート	◎	◎	◎	提出プリント/ノート	
農業鑑定(分野畜産)		◎	○	○	鑑定競技結果		
履 修 上 の 注 意	○実習は実習服または加工服へ更衣を済ませて畜舎へ集合します。 ○作業場の安全性を考えて長靴を履いてください。 ○実習ノートの提出が期限までに未提出の場合、評定が下がります。 ○農業鑑定競技会(畜産の部)への取組み、及び競技結果も評価に組み込みますので、競技力向上に努めてください。 ○実習（外）は放課後の家畜管理実習（当番制）、長期休業中の当番実習が含まれます。放課後当番実習・長期休業中の実習等の出席は100%で評価を行います。実施予定日に出席できない場合は、事前に担当教員に連絡のうえ、代替日に出席してください。						

学期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	学 習 活 動 (評 価 方 法)
1 学期		オリエンテーション ○年間を通じて鶏の飼育管理を行います 育雛室の清掃、消毒 産卵鶏の温度調整 収卵 給餌 給水管理作業 ○畜舎・放牧場周辺の清掃 土佐ジロー導入	12	・季節・気候による管理の違いを体験を通して習得する。 ・教科との関連性を考察しながら作業に臨む ・高知県の特産鶏である土佐ジローを用いて採卵および飼養管理の全般を学習する	○評価は以下の項目で評価します。 【学習状況観察】 【実習ノート提出】 【農業鑑定競技会】 なお、総合実習は教科内の実習と教科外の実習(放課後当番実習・長期休業中の実習等)で構成されています。教科外実習については出席等で教科内実習と異なる規定がありますので下の項目を見てください。
		土佐ジローの導入→予防接種		・管理と技術の相互関係体験的に学ぶ姿勢を育む	
		ハム加工実習	12	・各種畜産物加工製品を製造することで肉の加工特性を理解する。また、身をもって体験することで食品安全衛生の重要性を理解し、食品加工に携わる者としての心構えを身につける。	
		農業鑑定競技会 *一般管理の実習は年間を通じて行う。	12		
2 学期		土佐はちきん地鶏(ひな)導入 育雛室の清掃、消毒 産卵鶏の温度調整 収卵 給餌 給水管理作業	12	・はちきん地鶏の飼養管理と発育調査(飼料要求率の算出等)を行い、発育段階に合った飼料給与法を考える ・はちきん地鶏の発育調査のため毎週体重測定を行う。	はちきん地鶏の発育調査は科目「畜産」と同時進行で行う。 ○評価は以下の項目で評価します。 【学習状況観察】 【実習ノート提出】 ハム加工(11月・12月)は、畜産加工室で加工服着用のうえ行う。
		*一般管理の実習は年間を通じて行う。	8		
		ハム加工実習	12	・プレスハム製造を通し、肉処理技能の習得と安全衛生を考える ・はちきん地鶏の飼養管理と発育調査(飼料要求率の算出等)を行い、発育段階に合った飼料給与法を考える	
		土佐はちきん地鶏(ひな)導入	8		
3 学期		土佐ジロー オールアウト	5		○評価は以下の項目で評価します。 【学習状況観察】 【実習ノート提出】
		養豚一般管理実習	12	・3学期から順次、養豚管理の実習が入ってきます。	
		土佐はちきん地鶏解体実習	12	・9月に導入したはちきん地鶏を用い、鶏の解体方法を習得するとともに食の大切さを考える	
教科外 実習	年間	1. 放課後当番実習 2. 長期休業中の実習 (夏季休業中)畜舎管理等 (冬季休業中)畜舎一斉清掃等 (春季休業中))畜舎管理等 *上記に示した実習内容のほかに、年間数回、近隣の畜産農家や関係施設に出向いてのインターンシップ事業(就業体験)が行われる	35	・教科内実習では行えない実習内容を多く取り入れている ・終日実習や校外での活動も多く、実際の現場での就業体験による技術力の向上やコミュニケーション能力の向上を一つの目標に行う	評価基準は、教科内実習と同様です。長期休業中の実習開始時刻等は、事前に通知するので時間に遅れないようにしてください。 なお、教科外の実習(放課後当番実習・長期休業中の実習等)の出席は100%で評価を行います。欠席がある場合、年度内に補充実習をすませないと未評価となるので注意してください。
			140		

—

